

# ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプション Ver3.0 (Linux 版) アップデート手順書

## 目次

第1章	はじめに.....	2
1. 1	修正内容.....	2
第2章	アップデートの適用が必要なバージョン.....	4
2. 1	Management Consoleを使用した確認方法とアンインストール方法 .....	4
2. 2	Management Consoleがない環境の確認方法とアンインストール方法 .....	6
第3章	アップデートの準備.....	7
第4章	アップデート手順.....	8
4. 1	クラスタ環境の場合のクラスタ停止 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象) .....	8
4. 1. 1	Management Console を使用した場合 .....	8
4. 1. 2	Management Console がない環境 .....	9
4. 2	Updateの適用 .....	10
4. 2. 1	ManagementConsole を使用したUpdate.....	10
4. 2. 2	ManagementConsole がない環境のUpdate.....	12
4. 3	クラスタ環境の場合のクラスタ再開 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象) .....	13
4. 3. 1	Management Console を使用した環境の場合 .....	13
4. 3. 2	Management Console を使用しない環境の場合 .....	14
4. 4	更新・追加ファイル一覧 .....	15
第5章	注意事項.....	17
5. 1	セットアップ／アンインストール関連 .....	17
5. 2	FirewallServerでの運用 .....	19
5. 3	VMware ESX Server 4.0/4.1について .....	20
5. 4	SUSE Linux Enterprise Server について .....	20

# 第1章 はじめに

この手順書は 以下の製品に対応したアップデートの手順書です。

ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプション Ver3.0 (Linux版)	1 ライセンス	UL4008-005
ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプション Ver3.0 (Linux版)	6 ライセンス	UL4008-006

本アップデートは、以下の障害吸収／機能強化のアップデートです。

## 1. 1 修正内容

項番	障害内容
1	ESMPRO/ServerAgentの通報機能に対応するための通報テーブルのフォーマットに一部問題があり、正常にイベント通報ができなくなる場合があるのを修正。
2	ESMPRO/ACBlade管理オプションのAMC (クライアントモジュール) からACBMをインストールしたサーバの状態を参照可能にしました。
3	ESMPRO/DeploymentManager ver2.0に対応しました。
4	Express5800/420Ma、iExpressシリーズに対応しました。 (システム構成内にExpress5800/420Ma, iExpress5800が含まれる場合、システム構成内の制御端末／連動端末に Update適用 が必要となります。)  <Update適用が必要な機種> Exprss5800/400シリーズ (420Ma以外も含む) 、iExpress5800シリーズ
5	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 Red Hat Linux 7.3
6	以下のシェルスクリプトを追加 ■/usr/local/AUTORC/log_save.sh (ログ採取用シェルスクリプト) このシェルスクリプトを実行すると、ESMPRO/ACログ、シスログを圧縮します。 /opt/nec/wbmc/adm/service/ESMPRO_ACEnterprise/esmaclog.tar.gz  障害発生時に本シェルスクリプトをご利用ください。(Web環境が利用可能な場合には、Webからのログ採取も利用可能です。)  ■/usr/local/AUTORC/makedown.sh (OFF成立用シェルスクリプト) このシェルスクリプトをESMPRO/ACの起動時のジョブとして登録すると、起動後約10分後に「OFF成立」の状態となり、シャットダウン処理を開始します。
7	16文字以上のホスト名を持つシステムでの回避処理追加。 従来、サーバのホスト名が16文字以上の場合 (ドメイン名は含まない) には、運用不可でした。 今回 /etc/hosts に15文字以下のエイリアス名を設定すれば、ESMPRO/ACはその15文字以下のエイリアス名をサーバのホスト名として扱います。 16文字以上のホスト名で運用する場合、制御端末のAC Management Console にサーバを登録する際に、15文字以内のエイリアス名を登録してください。
8	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 Red Hat Enterprise Linux ES 3
9	AC Management Console機能によるWakeOnLan電源ON処理において連動端末のサーバ起動が正常に行われない場合がある問題を修正。

1 0	ESMPRO/ACと連携するソフトウェア(CLUSTERPRO、ESMPRO/JMSS) やESMPRO/ACのシャットダウンコマンド、AC GUI等からシャットダウン要求が発生した時に、シャットダウンリブートを行われる場合がある問題を修正。
1 1	CLUSTERPROによるクラスタ環境において、自動運転によるシャットダウンが正常に行われない場合がある問題を修正。
1 2	Express5800/120Ba-4, 110Ba-e3 のブレードサーバ電源制御機能対応。
1 3	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> Miracle Linux Standard Edition Version 3 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 (x86/EM64T)
1 4	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> Red Hat Enterprise Linux 5(x86/EM64T) VMware ESX Server 3.0,3.5 Citrix XenServer Enterprise Edition 4.0
1 5	新OS対応。 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> VMware ESX Server 4.0
1 6	新OS対応 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> SUSE Linux Enterprise Server 10
1 7	新OS対応 以下のOSを新規にサポートする。 <新規サポート> SUSE Linux Enterprise Server 11

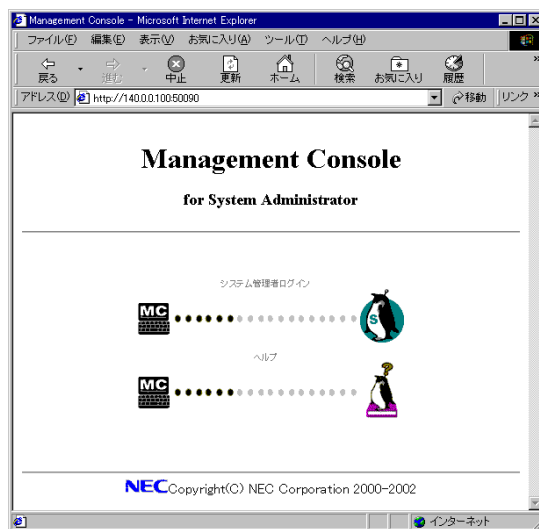
## 第2章 アップデートの適用が必要なバージョン

以下の手順でサーバの ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプション Ver3.0（以下「ACBM」と称します）のバージョンを確認してください。Linux 環境の場合には、以前の Update がインストールされている場合にはアンインストールします。

### 2. 1 Management Consoleを使用した確認方法とアンインストール方法

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。（インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合）

<http://140.0.0.100:50090/>



※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

(2) 以下の手順でACBMのUpdateのバージョンを確認します。

- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③「パッケージ一覧」で、「esmacbm\_update-3.0x-x.0」を探し、3. 0 8以上がインストールされていないことを確認してください。

(3) 以前のUpdateが既にインストール済みの場合、以下の手順で以前のバージョンを削除して下さい。

- ①上記の「パッケージ一覧」で、「esmacbm\_update-3.0x-x.0」を選択します。
- ②表示中の「アンインストール」を選択すると、削除されます。
- ③「パッケージ一覧」で、「esmacbm\_update-3.0x-x.0」を探し、アンインストールされていることを確認してください。

## 2. 2 Management Consoleがない環境の確認方法とアンインストール方法

コマンドラインからACBMをインストールする場合、以下の例のようにパッケージの依存性エラーが発生しインストールに失敗する場合があります。

(RedHat Enterprise ES 3 環境でのエラーメッセージ例)

エラー: Failed dependencies:

libdb.so.2 is needed by esmacbm-3.0-1.0

libnewt.so.0.50 is needed by esmacbm-3.0-1.0

libslang.so.1 is needed by esmacbm-3.0-1.0

Suggested resolutions:

compat-slang-1.4.5-5.i386.rpm

gnome-libs-1.4.1.2.90-34.1.i386.rpm

上記のようにパッケージ依存性のエラーが発生した場合には、rpm コマンドの引数に「--nodeps」オプションを付加してインストールを実施してください。

```
# rpm -ivh --nodeps rpm パッケージ名
```

(1) サーバにrootでログインします。

(2) rpmコマンドを実行します。

```
rpm -q esmacbm_update
```

rpm の実行結果が表示されます。

実行結果を確認し、**3. 0 8**以上のバージョンがインストールされていないことを確認してください。

(rpm コマンドの実行結果の例 1)

```
package esmacbm_update is not installed
```

(rpm コマンドの実行結果の例 2)

```
esmacbm_update-3.01-1.0
```

(3) インストールされている場合、rpmコマンドを使用して削除します。

```
rpm -e esmacbm_update
```

## 第3章 アップデートの準備

ダウンロードしたファイルを解凍すると、以下のファイルが作成されます。

ファイル名	内容
ESMACBM-30LX-UP201011.pdf	アップデート手順書（PDFファイル）
esmacbm_update-3.08-1.0.i386.rpm	アップデート用rpmファイル（Linuxモジュール）  <注意> モジュール対応表を参照して、適用対象の機種によってモジュールを使い分けてください。
esmacbm_update-3.08-2.0.i386.rpm	

下記のモジュール対応表の情報をもとに、対象の RPM ファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体または NFS 等を経由して、対象の Linux サーバにコピーしてください。

<モジュール対応表>

	100	400				iExpress 5800
		410Ea	410La	420Ma	その他	
esmacbm_update-3.08-1.0.i386.rpm	○※1	○	○	○	—	—
esmacbm_update-3.08-2.0.i386.rpm	○※2	—	—	—	○	○

※1 Express5800/BladeServer シリーズ（120Ba-4、110Ba 等）

※2 SIGMABLADE シリーズ(B120a、120Bb-6 等)

（機種）

iExpress5800 NP8400-1000P01, 1000P02, 1000P03

## 第4章 アップデート手順

ESMPRO/AC Blade マルチサーバオプションがインストールされた Linux サーバに本アップデートを適用する手順を説明します。なお、ここではアップデートモジュール (esmacbm\_update-3.08-2.0i386.rpm) をフロッピー媒体にコピーした場合を例に説明します。

### 4. 1 クラスタ環境の場合のクラスタ停止 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象)

Update を行う環境に CLUSTERPRO for Linux Ver3.0 未満がインストールされている場合には、以下の手順で一旦 CLUSTERPRO を停止させてください。

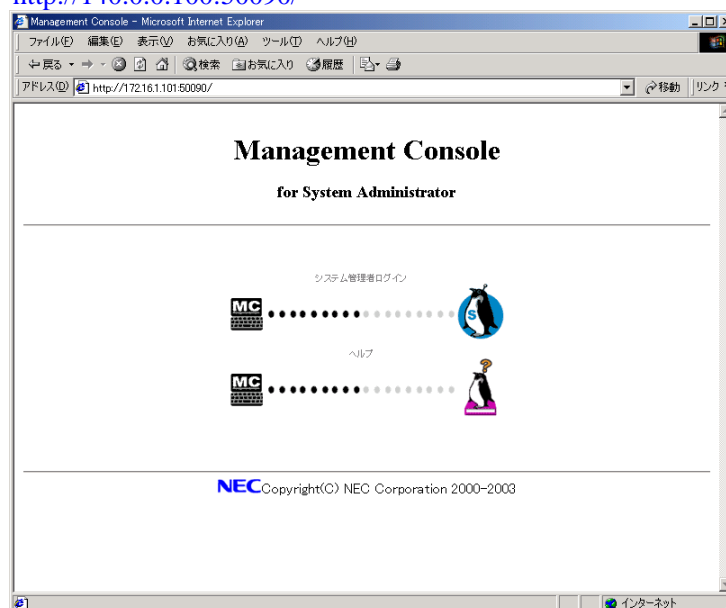
その後、マルチサーバオプションの Update を行ってください。

※CLUSTERPRO Ver3.0 以上またはCLUSTERPRO X 1.0 以上の場合、本手順は不要です。「4. 2 Update の適用」へ進んでください。

#### 4. 1. 1 Management Console を使用した場合

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>



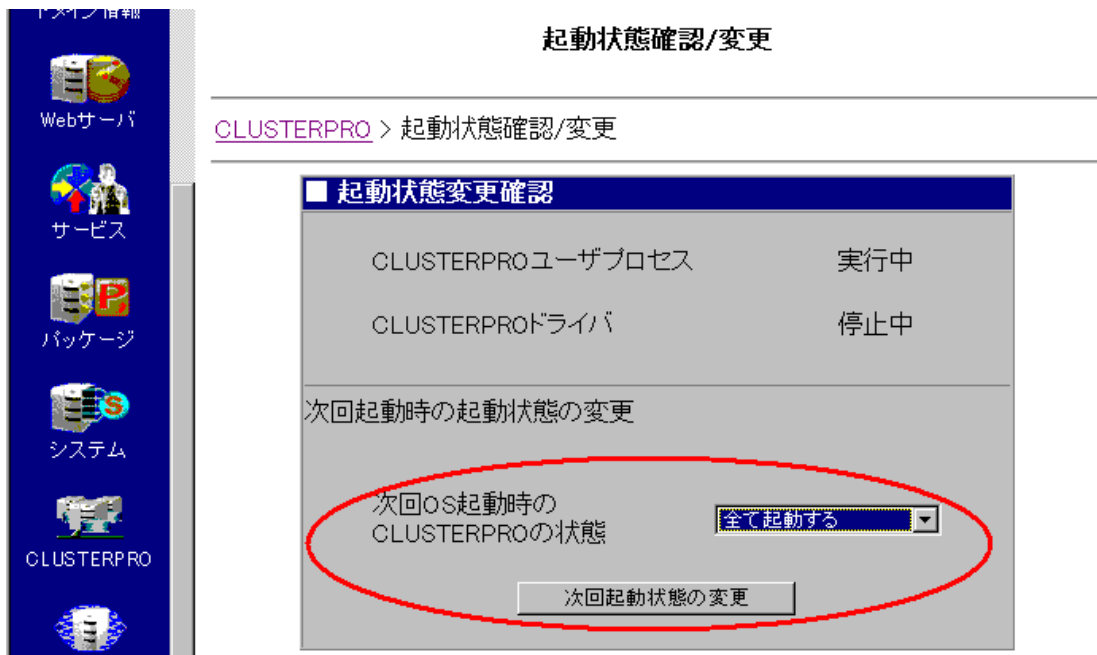
※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。



(2) 以下の手順でCLUSTERPROの起動状態設定を変更してください。

- ①左側の「CLUSTERPRO」を選択します。
- ②「CLUSTERPRO」で「起動状態確認／変更」を選択します。
- ③「起動状態確認／変更」で、「次回OS起動時のCLUSTERPROの状態」を「全て起動しない」を選択します。
- ④「次回起動状態の変更」ボタンを選択します。



(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、CLUSTERPROマネージャからシステムの再起動を行ってください。

#### 4. 1. 2 Management Console がない環境

- (1) root でログインしてください。
- (2) 以下のコマンドで、クラスタの次回起動時の起動状態を変更してください。

```
/etc/clusterpro/armstartup -manual
```

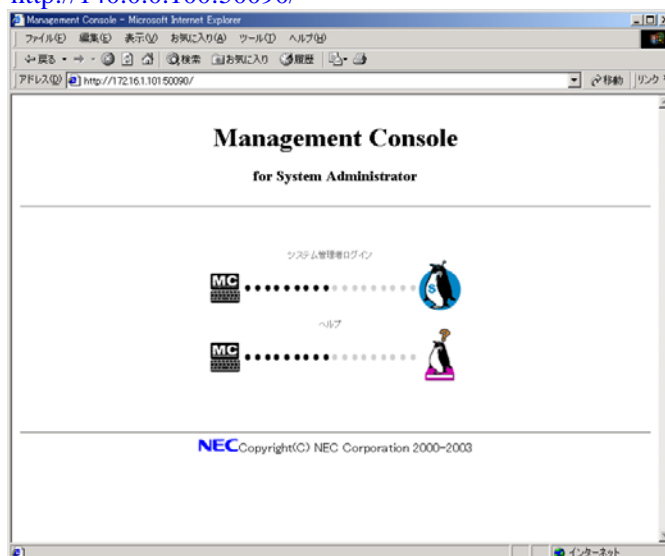
(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、CLUSTERPROマネージャからシステムの再起動を行ってください。

## 4. 2 Updateの適用

### 4. 2. 1 ManagementConsole を使用した Update

- (1) ファイル (esmacbm\_update-3.0x-x.0.i386.rpm) をコピーした外部記憶媒体(フロッピー、USBメモリ等)をインストールするLinuxサーバに挿入します。
- (2) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>

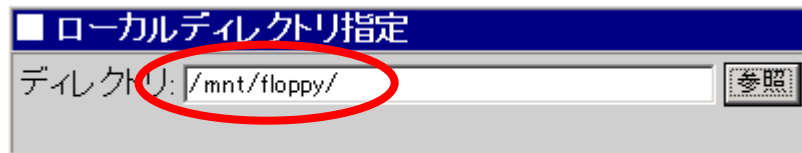


※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

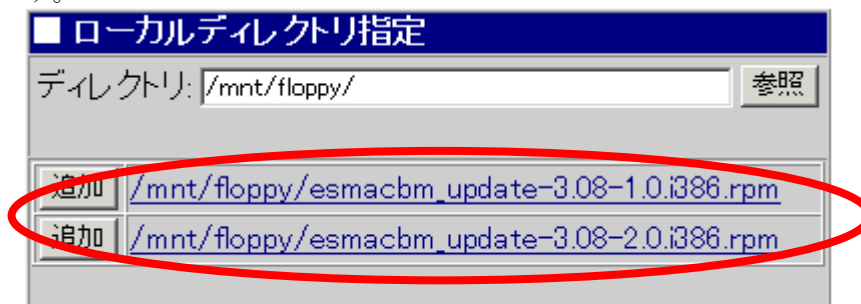
※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行って下さい。

- (3) 外部記憶媒体をファイルシステムにマウントしてください。  
※外部記憶媒体のマウント方法は使用するサーバ装置によって異なる場合があります。  
マウント方法の詳細は、サーバ装置に添付のマニュアル等を参照してください。
- (4) 古いUpdateが適用されている場合には以下の手順で削除してください。
  - ①左側の「パッケージ」を選択します。
  - ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
  - ③「パッケージ一覧」で、「esmacbm\_update-3.0x-x.0」を選択します。
  - ④表示中の「アンインストール」を選択すると、削除されます。
  - ⑤「パッケージ一覧」で、「esmacbm\_update-3.0x-x.0」を探し、アンインストールされていることを確認してください。
- (5) 以下の手順でACBMのアップデートを行います。
  - ①左側の「パッケージ」を選択します。

- ②「パッケージ」→「手動インストール」を選択します。
- ③「手動インストール」で、「ローカルディレクトリ指定」に外部記憶媒体のパス情報を入力(例：ここではフロッピーを例にとり、「/mnt/floppy」と入力)して「参照」ボタンを選択します。
- ※外部記憶媒体のマウントポイントについてはご使用の環境に合わせて適宜読み替えてください。



- ④外部記憶媒体にコピーされた「esmacbm\_update-3.08-x.0.i386.rpm」が表示されます。Updateの対象となるサーバによって、あらかじめファイルを選択してください。インストールするファイル名に誤りがないことを確認してから「追加」ボタンを選択します。



- ⑤「追加」を選択すると「インストールしてもよろしいですか？」と表示されますので、「OK」を選択してください。
- (6) ACBMが、アップデートされたことを確認します。
- ①左側の「パッケージ」を選択します。
- ②「パッケージ」で「インストールされているパッケージ一覧」を選択します。
- ③「esmacbm\_update-3.08-x.0」があることを確認します。
- (7) 「Management Console」を終了してください。

## 4. 2. 2 ManagementConsole がない環境の Update

- (1) ファイル (esmacbm\_update-3.0x-x.0.i386.rpm) をコピーした外部記憶媒体(フロッピー、USBメモリ等)をインストールするLinuxサーバに挿入します。
- (2) root でログインしてください。
- (3) 外部記憶媒体をマウントしてください。  
※外部記憶媒体のマウント方法については、別途サーバ装置添付のマニュアル等を参照してください。  
以下、フロッピーを使用する場合を例として説明いたします。  

```
mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy
```
- (4) 以前のUpdateがインストールされているか確認し、インストール済みの場合には、アンインストールします。

```
rpm -q esmacbm_update
```

rpm の実行結果が表示されますので、実行結果を確認し、3. 0 8未満の場合には以下のコマンドでアンインストールします。

```
rpm -e esmacbm_update
```

- (5) rpmコマンドを使用してインストールします。(適用する機種によってマウントポイントのパス情報およびファイル名の指定を変更ください。)  
**esmacbm\_update-3.08-1.0.i386.rpm**  
**esmacbm\_update-3.08-2.0.i386.rpm**

```
rpm -ihv /mnt/floppy/esmacbm_update-3.0x-x.0.i386.rpm
```

- (6) 外部記憶媒体をアンマウントします。  
※外部記憶媒体のアンマウント方法については、別途サーバ装置添付のマニュアルを参照してください。  

```
umount /mnt/floppy
```

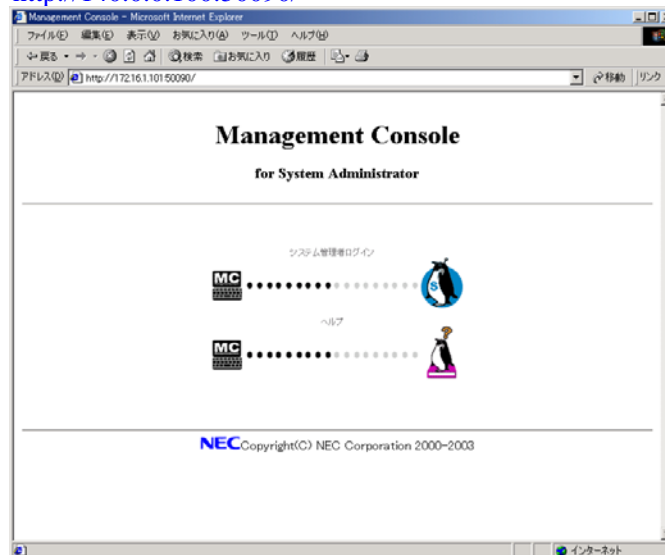
## 4. 3 クラスタ環境の場合のクラスタ再開 (CLUSTERPRO Ver3.0未満が対象)

「4. 1 クラスタ環境の場合のクラスタ停止 (CLUSTERPRO Ver3.0 未満が対象)」にて CLUSTERPROを停止させた場合、Updateを行った後にCLUSTERPROを再開させていただきます。

### 4. 3. 1 Management Console を使用した環境の場合

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。(インストールするサーバのIPアドレスが140.0.0.100の場合)

<http://140.0.0.100:50090/>

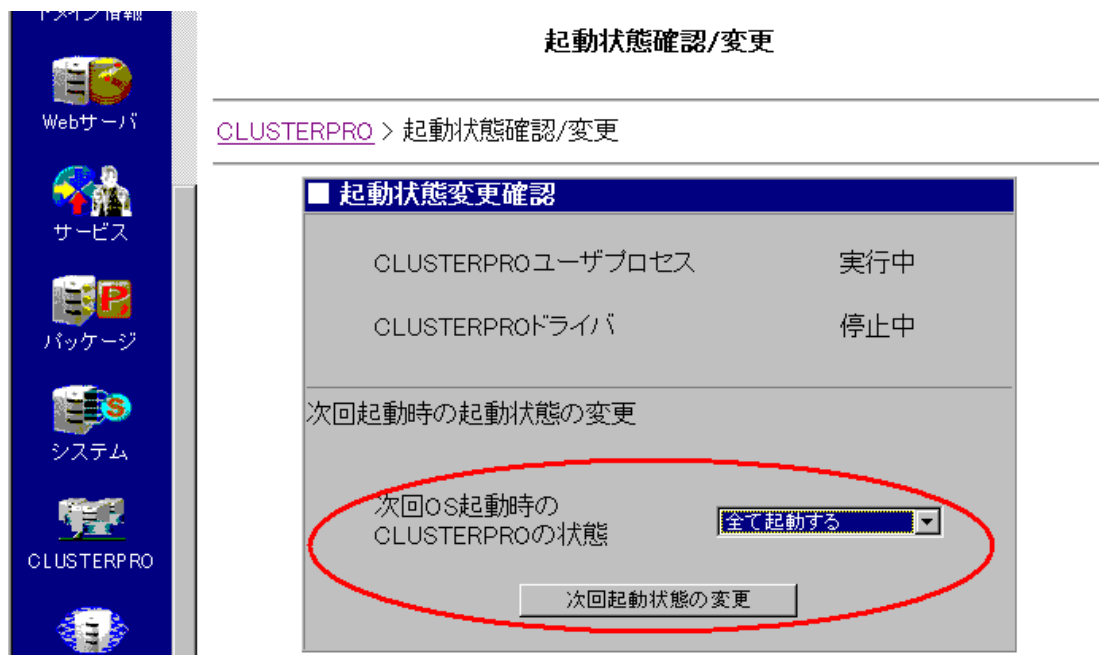


※このアドレスで指定する50090は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照ください。

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

(2) 以下の手順でCLUSTERPROの起動状態設定を変更してください。

- ①左側の「CLUSTERPRO」を選択します。
- ②「CLUSTERPRO」で「起動状態確認／変更」を選択します。
- ③「起動状態確認／変更」で、「次回OS起動時のCLUSTERPROの状態」を「全て起動する」を選択します。
- ④「次回起動状態の変更」ボタンを選択します。



(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、システムの再起動を行ってください。

#### 4. 3. 2 Management Console を使用しない環境の場合

- (1) root でログインしてください。
- (2) 以下のコマンドで、クラスタの次回起動時の起動状態を変更してください。

```
/etc/clusterpro/armstartup -auto
```

(3) 全てのCLUSTERPROのサーバに同様の操作を行った後、システムの再起動を行ってください。

## 4. 4 更新・追加ファイル一覧

### ■/usr/local/AUTORC/

-rwxr-xr-x	1	root	root	20926	1 月	4	2005	acupslog
-rwxr-xr-x	1	root	root	71562	2 月	4	2003	amccmd
-rwxr-xr-x	1	root	root	329776	10 月	21	18:42	esmarcsv
-rwxr-xr-x	1	root	root	179622	2 月	2	2006	libacipmi.so.1
-rwxr-xr-x	1	root	root	56514	12 月	13	2004	libpowoff.so.2
-rwxr-xr-x	1	root	root	802	5 月	7	2009	log_save.sh
-rwx-----	1	root	root	147	12 月	11	2002	makedown.sh

### ■/usr/local/AUTORC/data/

-rwxr--r--	1	root	root	5586	12 月	27	2005	ac_euc.msg
-rwxr--r--	1	root	root	6909	12 月	27	2005	ac_utf8.msg

### ■/opt/nec/report/inf/

-rwxrw-r--	1	root	root	215	2 月	24	2003	EsmproAcbmJpn
------------	---	------	------	-----	-----	----	------	---------------

### ■/opt/nec/report/table/

-rwxrw-r--	1	root	root	10356	2 月	24	2003	esmpoacbm.tbl
------------	---	------	------	-------	-----	----	------	---------------

### ■/opt/nec/wbmc/adm/service/ESMPRO\_ACEnterprise/

-rwxr-xr-x	1	root	root	75152	2 月	27	2004	amc.pl
-rwxr-xr-x	1	root	root	5213	2 月	21	2003	clusterpro.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	21529	3 月	1	2004	common.pl
-rwxr-xr-x	1	root	root	53146	3 月	2	2004	esmac.cgi
-rwxrw-r--	1	root	root	263	2 月	21	2003	esmac.css
-rwxr-xr-x	1	root	root	23873	3 月	4	2010	esmac.pl
-rwxr--r--	1	root	root	4430	3 月	4	2005	esmac_help.html
-rwxr-xr-x	1	root	root	786	5 月	18	2009	log_save.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	6105	1 月	21	2010	not_use_sa.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	2289	2 月	21	2003	schedule.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	77761	3 月	1	2004	set_amcdata.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	4159	2 月	21	2003	set_cluster.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	798	2 月	21	2003	set_dc.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	2003	2 月	21	2003	set_do.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	1425	2 月	21	2003	set_down.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	1422	2 月	21	2003	set_ini1.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	4405	2 月	23	2005	set_ini2.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	3416	2 月	21	2003	set_job.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	2727	2 月	21	2003	set_schd.cgi
-rwxr-xr-x	1	root	root	3544	2 月	21	2003	setjob.cgi
-rwxr--r--	1	root	root	416	1 月	16	2008	wbmc.rc

<SUSE Linux Enterprise Server 以外の場合>

■/etc/rc.d/init.d/

-rwxr-xr-x 1 root root 9409 10 月 8 17:06 esmarcsv

<SUSE Linux Enterprise Server の場合>

■/etc/init.d/

-rwxr-xr-x 1 root root 9409 10 月 8 17:06 esmarcsv



## 第5章 注意事項

### 5. 1 セットアップ／アンインストール関連

- (1) 本Updateの適用手順は対象サーバで外部記憶媒体(フロッピー、USBメモリ等)が利用できることを前提にUpdate手順を記載しています。外部記憶媒体が利用できない場合には、ftp、NFSなどを利用して対象サーバにファイルの転送を行ってください。ファイルを転送後のUpdate適用作業は同様の手順で可能です。

- (2) 本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

- (3) LinuxモジュールのUpdateを行った後には、OSの再起動または、マルチサーバオプションのサービス再起動が必要です。

(SUSE Linux Enterprise Server以外の場合)

```
/etc/rc.d/init.d/esmarcsv stop  
/etc/rc.d/init.d/esmarcsv start
```

(SUSE Linux Enterprise Server の場合)

```
/etc/init.d/esmarcsv stop  
/etc/init.d/esmarcsv start
```

- (4) 本Update適用後のマルチサーバオプションのアンインストール方法について  
Linuxサーバへ本Update適用後、マルチサーバオプションのアンインストールを行う場合、マルチサーバオプションのアンインストール手順だけでは、Update モジュールの削除ができません。このため、Update 後にアンインストールを行う場合、

a) マルチサーバオプション Update (本 Update)

b) マルチサーバオプション

を別々にアンインストールする必要があります。

また、この際にはマルチサーバオプション Update を以下の手順で先にアンインストールしてください。

- a) マルチサーバオプション Update のアンインストール方法

<ManagementConsole を使用したアンインストール>

→ 「パッケージ」

→ 「インストールされているパッケージの一覧」

→ 「esmacbm\_update-3.0x-x.0」

→ 「アンインストール」

<ManagementConsole がない環境のアンインストール>

```
rpm -e esmacbm_update
```

- b) マルチサーバオプションのアンインストール方法

マルチサーバオプションのセットアップカード【3. 3 ESMPRO/AC Blade マルチサーバオプションのアンインストール】を参照ください。

- (5) 制御端末のESMPRO/ACサービスは、各サーバのホスト名、コンピュータ名を15文字まで認識します。このため、Linuxサーバに16文字以上のホスト名を設定されていると、制御端末から認識できません。その回避処理として、サーバのホスト名が16文字を越え

ていると、ESMPRO/ACサービスは、/etc/hostsに設定される15文字以内のエイリアス名を自ホスト名として認識します。16文字以上のホスト名が設定されている場合には、15文字以内のエイリアス名を/etc/hostsに登録してください。

- (6) システム構成内に、Windows制御端末 (ESMPRO/AC + ESMPRO/AC Enterprise) が存在している場合には、Windows制御端末にも Update が必要です。  
(ESS RL2002/06 以降のRURまたは、Update ESMARC-032-00C以降 の適用が必要)

- (7) コマンドラインからACBMをインストールする場合、以下の例のようにパッケージ依存性のエラーが発生しインストールに失敗する場合があります。

(Red Hat Enterprise Linux ES/AS 3環境でのエラーメッセージ例)

エラー: Failed dependencies:

libdb.so.2 is needed by esmacbm-3.0-1.0

libnewt.so.0.50 is needed by esmacbm-3.0-1.0

libslang.so.1 is needed by esmacbm-3.0-1.0

Suggested resolutions:

compat-slang-1.4.5-5.i386.rpm

gnome-libs-1.4.1.2.90-34.1.i386.rpm

上記のようにパッケージ依存性のエラーが発生した場合には、rpm コマンドの引数に「--nodeps」オプションを付加してインストールを実施してください。

# rpm -ivh --nodeps rpm パッケージ名

- (8) 本製品にて電源管理/自動運転を行う場合、OS シャットダウン後にサーバ装置の電源がオフされる必要があります。OSシャットダウン後もサーバ装置の電源がオフされない場合、そのサーバ装置に電源供給しているUPSのオフ/オンに連動した電源管理/自動運転を行う必要があります。
- OS シャットダウン後電源オフされない OS またはサーバ装置を使用する場合、AC-LINK は[Power ON]に設定して運用してください。

## 5. 2 FirewallServerでの運用

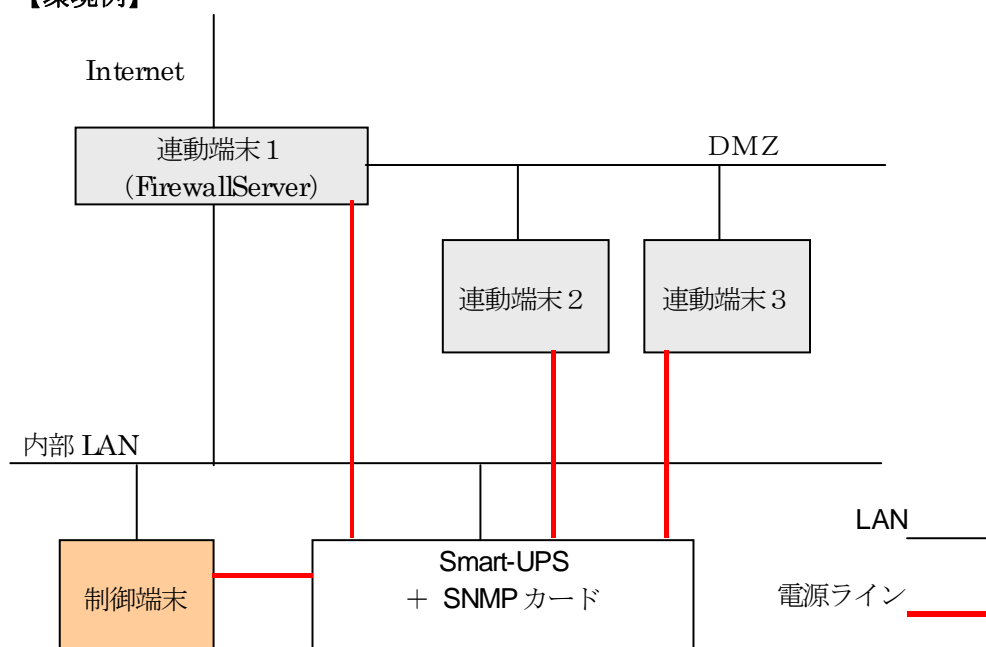
連動端末と制御端末の間に FirewallServer があり、その FirewallServer にマルチサーバオプションをインストールして運用を行う場合には以下のような設定変更が必要です。

以下の図のような構成で運用する場合、制御端末が連動端末 2，3 に対して停電時などのシャットダウン要求を行うためには、連動端末 1 (FirewallServer) が動作している必要があります。

しかし、制御端末から連動端末に対するシャットダウン要求のタイミングによっては、最初に連動端末 1 にシャットダウン要求を行われ、FirewallServer のシャットダウンが開始してから連動端末 2，3 へのシャットダウン要求が行われることがあります。

その場合、FirewallServer の処理が停止してしまい、連動端末 2，3 へ制御端末からのシャットダウン要求が届かなくなる可能性があります。

### 【環境例】



このような動作を回避するためには、FirewallServer のシャットダウン処理の開始を若干遅らせる必要があります。

本 Update をインストールすると、「電源切断時の起動ジョブ」「電源異常発生時の限定ジョブ」に、それぞれ 5 秒スリープさせるコマンドを追加しますので、FirewallServer に Update を導入する際には各起動ジョブを有効にする設定にしてください。

### 【設定ファイルの修正方法】

1. 以下のファイルで、パラメータ「DownJob」の値を 3 に変更。(root ユーザでログインして操作してください。)

ファイル名 : /usr/local/AUTORC/data/config.apc

パラメータ名 : DownJob

変更後の値 : 3

2. OS の再起動、または ESM/PRO/AC サービスの再起動を行ってください。

## 5. 3 VMware ESX Server 4.0/4.1について

VMware ESX Server 4.0/4.1の電源管理を行うためには、VMware ESX Server 4.0/4.1以外に別途ESMPRO/ACの制御端末となるサーバが必須です。VMware ESX Server 4.0/4.1におけるESMPRO/ACの電源管理を行うためのドキュメントを下記にて公開しておりますので、必要に応じて参照してください。

「電源管理・自動運転 ESMPRO/AutomaticRunningController」

[http://www.nec.co.jp/esmpro\\_ac/](http://www.nec.co.jp/esmpro_ac/)

→ ダウンロード

→ 各種資料

→ VMware ESX 4 環境における電源管理ソフトウェアの導入

## 5. 4 SUSE Linux Enterprise Server について

SUSE Linux Enterprise Server にて ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションを使用する場合、追加の注意事項があります。

- (1) 本体パッケージのインストール作業は製品添付のセットアップカードを参照して行ってください。なお、製品CD-ROMから本体パッケージをインストールする際、以下のエラーメッセージが表示されますが、無視してください。

`esmarcsv: unknown service`

- (2) 製品CD-ROMから本体パッケージをインストールした後、アップデートを適用せずにサーバを再起動しても、インストールした製品のACサービスが起動できません。

《対応処置》

上記記載のアップデートを適用することで、製品のサービスデーモンが正しく自動起動されるようになります。

- (3) CD-ROMから本体パッケージをインストールした後、アップデートを適用せずに本体パッケージのアンインストールを試みても、アンインストール操作が実施できません。

《対応処置》

上記アップデートを適用した後に、以下の順序でアンインストール作業を実施することで、本体パッケージのアンインストールが可能となります。

1. RPMコマンド(`rpm -e`)にてアップデートパッケージをアンインストール。

`rpm -e esmacbm_update`

2. RPMコマンド(`rpm -e`)にて本体パッケージをアンインストール。

`rpm -e esmacbm`

※注意

上記対応処置によるアップデートパッケージおよび本体パッケージのアンインストール実施後も以下のファイルが残ったままとなっています。お手数ですが、root権限にて手動削除をお願いします。

`/etc/init.d/esmarcsv`